

理学部オープンキャンパス体験授業

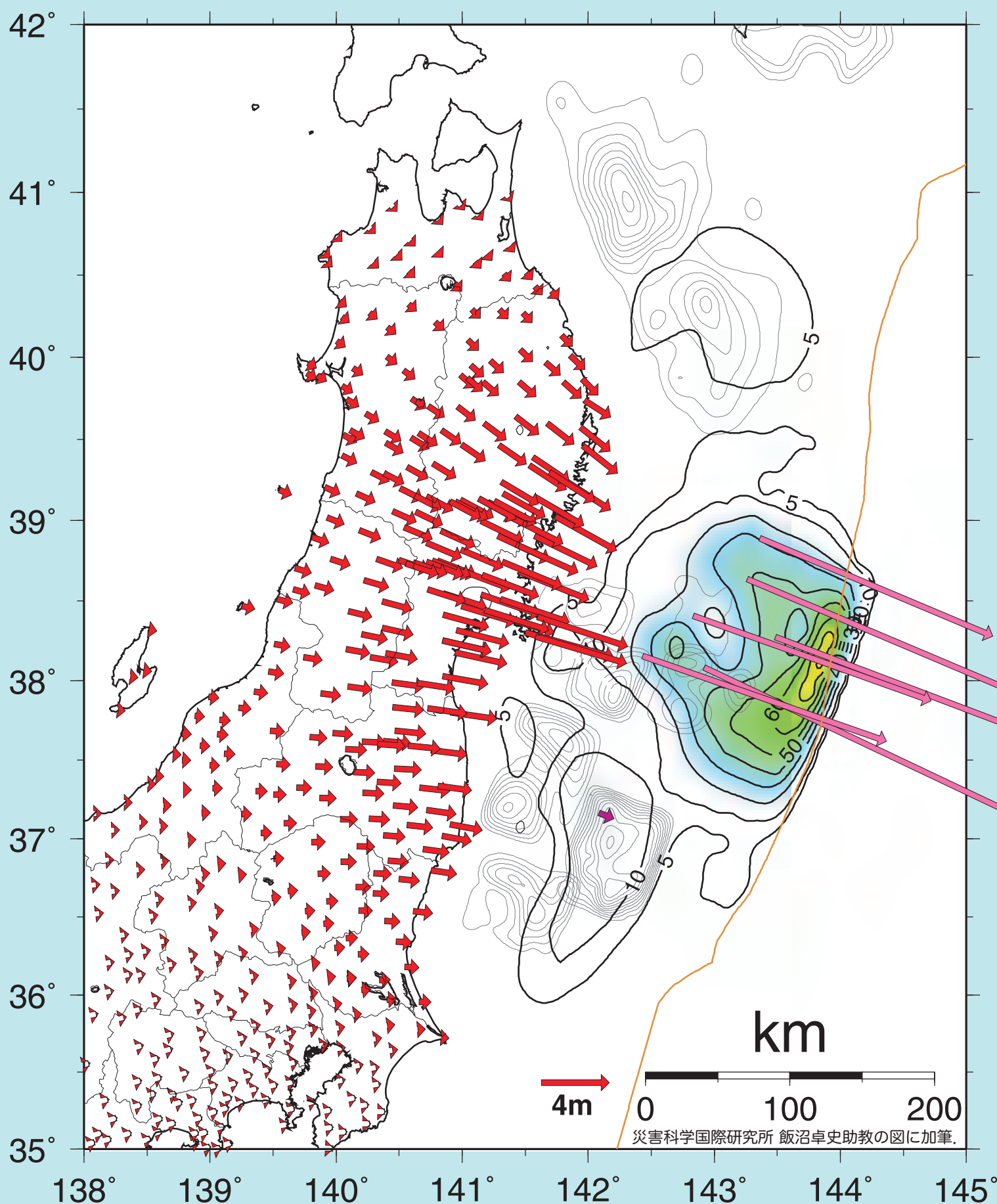
「東北地方太平洋沖地震は どのようにして起こったのか？」

講師 松澤 暢 教授

(地震・噴火予知研究観測センター)

7月30日(火) 10:45-11:45

物理系講義棟 318号室



この図は、2011年東北地方太平洋沖地震の際に観測された陸上(赤矢印)と海底(紫矢印)の地殻変動と、地殻変動から推定されたプレート境界のすべり量分布を示しています。最大で50mを超えるすべりがあったと考えられています。灰色の細線は、過去に大きな地震が発生した領域(アスぺリティ)です。東北地方太平洋沖地震では、複数のアスぺリティが同時に破壊され、さらに、海溝軸付近でも大きなすべりが生じました。体験授業では、巨大な地震が生じたメカニズムを説明し、このような複雑な破壊と津波被害の関係を解説します。

災害科学国際研究所 飯沼卓史助教の図に加筆。